

IPM関連剤

ミヤコスター®

ミヤコカブリダニ…………… 2,000頭/300mℓ

種類名/ミヤコカブリダニ剤
農林水産省登録/第23388号
(住化テクノサービス登録)
毒性/—
有効年限/—
包装/2,000頭/300mℓ

特 長

- いちごなど野菜類(施設栽培)で問題となるハダニ類の卵~成虫を捕食する有力な土着天敵です。
- 薬剤抵抗性の発達したハダニ類にも効果を発揮します。
- 広食性のカブリダニのためナミハダニ、カンザワハダニの他、コナダニ、花粉なども餌とするため、ハダニ類の発生前からスケジュール的に放飼できます。

適用害虫と使用方法

使用にあたっては必ずラベルを読んで下さい。

作物名	適用害虫名	10a当り使用量	使用時期	総使用回数*	使用方法
野菜類 (施設栽培、但し、 いちごを除く)	ハダニ類	2000頭	発生初期	—	放飼
いちご (施設栽培)		2000~6000頭			
いちご (露地栽培)		0.3~1頭/株			
花き類・観葉植物 (施設栽培)		6000頭			

生態的特徴

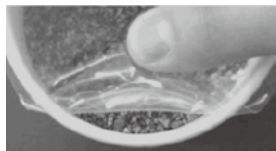
- 雌成虫体長:0.4mm
- 活動温度:10~35℃(増殖適温15~30℃)
- 雌成虫寿命(25℃):約30日
- 捕食範囲:ナミハダニ、カンザワハダニなど多種ハダニ類
- ハダニ卵の捕食量(ミヤコカブリダニ雌成虫):約7卵/日(生涯約200卵)

上手な使い方

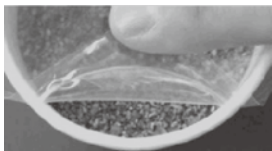
(いちごの例)

- 放飼前にハダニ類の密度を極力落とすため、以下の通り化学薬剤やエコビタ液剤との体系使用を行ってください。
 - ①定植1~2週間後を目安にカブリダニに影響の少ない化学薬剤を散布してください。
 - ②スポット的に見られるハダニ類は気門封鎖剤(エコビタ液剤)などで防除してください。
 - ③定植30~40日後、株同士の葉が重なり合い、花が咲いたら放飼してください。
 - ④10a当り2~3本(4000~6000頭)を目安に放飼してください。以降ハダニ類が発生した場合は、影響の少ない化学薬剤を散布し、追加放飼を行ってください。

めくりの大きさと振りかけ回数目安



開口部5mm 約1000回



開口部7mm 300~400回



株上に放飼

内蓋(フィルム)をめくる

予防的に放飼するときは、ハウス全体に放飼

ハダニ発生後は、発生量の多いところに重点的に放飼



ハダニ発生箇所

- 放飼前、放飼期間中はカブリダニに影響のある化学薬剤を使用しないでください。
- 春先は気温が上昇し、ハダニ類の増殖に好適な環境となるため、状況に応じて影響の少ない化学薬剤を散布してください。

使用にあたって

■使用上の注意

- 本剤はハダニ類を捕食する天敵ミヤコカブリダニを含有する製剤です。
- ミヤコカブリダニの容器内の生存日数は短いため、入手後直ちに使用し、使いきってください。
- ミヤコカブリダニ成虫がボトルの上部にいるため、容器を軽く叩いてふた裏の成虫を落としてください。
- 容器中でミヤコカブリダニが偏在していることがありますので、使用の際は容器をゆっくり回転させて均一に混在させたのち、所定量を放飼してください。
- ハダニ類の生育密度が高くなってからの放飼は十分な効果が得られないことがありますので、ハダニ類がまだ低密度で散見され始めたときに最初の放飼をしてください。
- 天敵としてミヤコカブリダニが有効な密度を保つため、ハダニ類の発生初期より1~2週間間隔で連続放飼をすることが望ましいです。
- ミヤコカブリダニの活動に影響を及ぼすおそれがあるので、本剤の放飼前後の薬剤散布はさけてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

■安全使用上の注意

- アレルギー体質の人は取扱いに十分注意してください。

■貯蔵上の注意

- 本剤は天敵生物であるので、入手後速やかに使用し保存しないでください。

本資料の記載内容は2024年7月25日現在の登録内容に基づいています。